

〔増鏡今日の日影〕太郎なりけるをのこは、南殿の御帳の内にてじがいしぬ、おとりの八郎といひて、十九になりけるは、大床子のあしの玄たにふして、よるもの、あしをきりくしけれども、さすがあまたしてからめむとすれば、かなはで自害するとはらわたをばみなくりいだして、手にぞもたりける、そのま、ながらいづれをも、六波羅へかきつゞけて出しけり、

〔太平記二十一〕鹽冶判官讒死事

木村源三一人付順テ有ケルガ馬ヨリ飛テヲリ、判官ガ首ヲ取テ、鎧直垂ニ裏ミ、遙ノ深田ノ泥中ニ埋テ後腹カキ切腸繰出シ、判官ノ首ノ切口ヲ陰シ、上ニ打重テ懷付テゾ死タリケル、

大腸

〔倭名類聚抄三藏府〕大腸 中黄子云大腸長反和名波良和太、爲傳送之府

〔箋注倭名類聚抄三藏腑〕醫心方同訓、膈腸亦同訓略○中按素問靈蘭秘典論、膈者中正之官、脾胃者倉

廩之官、大腸者傳道之官、小腸者受盛之官、三焦者決瀆之官、膀胱者州都之官、難經三十五難經云、小腸者受盛之府也、大腸者傳寫行道之府也、膽者清淨之府也、胃者水穀之府也、膀胱者津液之府也、靈樞本輸篇、大腸者傳道之府、小腸者受盛之府、膽者中精之府、胃者五穀之府、膀胱者津液之府、又云、三焦者中瀆之府、五行大義引河圖與靈樞同、但中瀆作內瀆、鍼灸甲乙經亦與靈樞同、中精作清淨、無三焦爲異、據上件諸書、傳送似傳道之誤、然華佗中藏經、大腸者爲傳送之司、素問欬論次注云、大腸爲傳送之府、陳言三因方、大腸者傳送之官、變化出焉、醫方類聚引神巧萬全方云、大腸者肺爲表裏、名傳送之府、又引五藏六府圖云、肺呼吸之津、傳送之官、則不得以傳送爲誤也、說文、腸大小腸也、釋名、腸暢也、通暢胃氣去滓穢也、廣雅、腸詳也、

〔類聚名義抄二肉〕大腸ハハラヲタ、ホハラヲタ

〔伊呂波字類抄人體〕大腸中黄云、波良和太

〔和漢三才圖會十一經絡〕大腸だいじやう 手陽明大腸和名波良和太、氣血俱多